

昨日(10.17)発表した下記2019年9月実績実績概要(メモ)の1.生産動向(イ)エチレンについて誤りがありました。

誤)553,400トン ⇒ 正)533,400トン となります。お詫びして修正させていただきます。

なお、他の伸長率等の数字に修正はありません。

2019年9月実績概要(メモ)

(修正 2019.10.18)

各誘導品の生産は、稼働率要因や定修規模の差から減産品目が多数を占める。

1. 生産動向

イ) エチレン **533,400**トン

前月比 ▲ 3.2% (▲17,700トン)
前年同月比 +12.0% (+57,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	-
定修要因等	+ 0.6%	+13.8%
能力増減	-	+ 0.1%
稼働率変動	▲ 0.6%	▲ 1.9%
生産増減率	▲ 3.2%	+12.0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.7%→ 当月93.2% ← 前年同月94.8%

定修プラント：前月1社1プラント→ 当月なし ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減とともに稼働率要因等や定修規模差からLD、HD、PP、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、EG、AN、SBR、トルエン、キシレンなどの15品目がマイナス。BR、アセトアルデヒドの2品目のみはプラスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、EO、トルエン、キシレンなどの10品目がマイナス。PP、SM、AN、SBR、BRなどの7品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数の減少に加えて主に稼働率要因から、LD、HD、PP、PSの4樹脂ともにマイナスとなった。

前年比では、LD、HDは主に稼働率要因からマイナスとなった。PPは定修規模差からプラス、PSは定修規模差と稼働率要因がほぼ相殺し前年並みの生産となった。

ロ) 国内出荷

夏季休暇があった前月に対して、当月はユーザー側での稼働日数の増加もあり、LD、HD、PP、PSとも二桁プラスの出荷となった。

前年比では、PPは射出成形分野を中心とした出荷増加により前年を上回るとともに、HDでは中空成形分野等の出荷増加がありプラスとなった。LDはフィルム分野の出荷が漸く前年並みに戻るもののフィルム以外の分野の出荷減少もありマイナス、PSでは電機・工業分野における出荷減少が響きマイナスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、これまで低調な輸出となっていたポリオレフィンの中で、LD、HDがやや増加しプラスになった。また、前月に一時、輸出が減少したPSも当月はプラスとなった。PPは国内向けの出荷増加の関係もありマイナスとなった。

前年比ではLD、PSでプラスとなったが、HD、PPではマイナスが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PP、PSで減少し、HDはやや増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PSで低下、PPは僅かに上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PSは高め、PPはタイト傾向が続いている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LD	▲22,400	3.8	3.6
HD	+3,900	3.8	3.6
PP	▲4,500	2.9	3.0
PS	▲2,100	1.8	1.7

以上